

めざして、セーフコミュニティに取り組んでいます。

セーフコミュニティとは、WHOが提唱する「事故やけがは予防できる」という考えに基づき、科学的な予防対策とまちぐるみの連携によって事故やけがを防いでいこうとする世界基準の取り組みで、今年の秋の認証をめざしています。

地域の特性や課題に基づいて、優先して取り組むテーマを5つ設定し、それぞれの対策委員会によりさまざまに取り組みを進めています。

取組①
家具転倒防止の対策（家具補強・固定の推進）

地震に備えて、家具転倒防止の対策に取り組んでいます。各区に先立つて取り組みを行うモデル地域として、6地域を選定しました。モデル地域内で家庭内防災取り組み状況アンケートを配布しました。今後、アンケート結果をふまえ、これからの取り組みに反映させていきます。

また、「家庭版地震ハザードマップ」では、家具固定用品の設置方法や地震が起きた際の自宅内危険箇所リストなどを紹介しています。

取組② 自主防災組織の設置率向上と組織活動の活性化

自主防災設置率の向上と各地域に防災士を養成することを目的としています。市では、自主防災組織立ち上げ、防災士取得のための補助制度を備えています。今月、防災士養成講座を実施し、市内各学区で防災士名簿登録者を1人以上とする目標は達成される見通しです。

“いつか”のための災害対策は万全ですか？ その災害、明日かも

全国的に地震、風水害等の災害被害が報じられることの多い昨今、市内においても一昨年の台風18号がもたらした甚大な被害は記憶に新しいところです。

セーフコミュニティでは、災害被害の防止をテーマに「災害対策委員会」を設置して取り組みを進めています。



▲ポール式家具転倒防止用品を設置する様子



▲マット式家具転倒防止用品を設置する様子



▲家庭版地震ハザードマップ

取組④ 防災訓練の実施

地域の防災訓練の実施率向上をめざしています。具体的

織結成のための出前講座制度も活用しています。

家庭内防災取り組
み状況アンケートに
より、非常用持出袋
家庭内備蓄には具
体的に何を備える
べきかなどを地域
で考えられています。

学べます。

このように、さまざまな方法で非常用持出袋・家庭内備蓄の普及啓発に取り組んでいます。



▲災害時持ち出し用品の内容例

取組③ 非常用持出袋・家庭内備蓄の普及啓発

また、ボランティアグループ：市民グループ等による、寸劇やクイズによる啓発活動が行われており、参加者は、楽しく参加しやすい形で防災に関して



セーフコミュニティ こうか

みんなでつくる安心安全なまち

モデル地域である小佐治区防災リーダー
かわいひとし
河合仁司さん



防災にはハード面とソフト面の両方が大事ですが、ソフト面についてなかなか進まないのが現状です。6月に実施したアンケートでは防災活動について85.6%が参加に前向きですが実際に行動しているのはその半分以上に過ぎません。セーフコミュニティのモデル地域の指定を受け、これをきっかけに区民との話し合いの場で、知識や思い以上にまず行動することの大切さを浸透させていきたいと思います。

啓発活動を行うボランティアグループ
あいづースリーフ
より1234
にしむらよりこ
西村與利子さん



寸劇・漫才
などを通じて
災害対策を含
めた安全なくら

しの啓発活動を、高齢者のサロンや地域のイベントで行っています。

市がセーフコミュニティ認証へ進むことで、これからますます多くの具体的な取り組みが市民の皆さんに紹介されるでしょう。そして皆さんの実践につながっていけばと思います。どのような取り組みでも、それが災害時には大きく活きると思います。

お問い合わせ
危機管理課 セーフコミュニティ推進室
☎ 621805 / Fax 634619



▲防災士を講師に災害図上訓練を行う市民